

「第76回 NPO 法人日本医学図書館協会総会」報告

大野フヂエ*

新潟大学附属図書館旭町分館

I. はじめに

平成17年の第76回総会の当番館ということで、NPO 法人設立記念式典を含めた第75回総会に、総会出席者3名(2名と協会役員1名)の他に、直前に2名を協力員として参加させていただいた。私を含め4名は初めての総会への参加のため、総会のイメージも無く、まして運営については素人であった。例年行われている次期当番館との昼食会では、館長が万代橋の紹介をしている傍で昼食を食べたが、具体的な質問は何もできなかった。分かっていたことは、来年の総会をやらねばならないということだけであった。

如水会館での祝賀会後に、まず北信越地区の参加者が集合して名刺交換・自己紹介を行い、メーリングリスト作成を確認し、力強い応援のエールをもらった。また、企業展示会場にて、各社に名刺を配りながら是非来年は新潟に来て欲しいと依頼してまわった。

II. 第1回組織委員会

北信越地区の各加盟館より1名の候補者を出してもらい、会長より委嘱状を頂き組織委員のメンバーが揃ったが、北信越地区は非常に広いことに改めて気付いた。組織委員会出席でもっとも遠いところは前泊、後泊の2泊が必要であり、日帰り可能は同じ新潟市内の日本歯科大学新潟歯学部のみであった。総会当日の協力員も旅費と宿泊費の負担を考えると他館の協力は難しく、新潟大学で極力運営せざるを得ないことが分かった。

第76回 NPO 法人日本医学図書館協会総会組織委員
組織委員長

藤井 雅寛 (新潟大学附属図書館旭町分館長)

*平成16年11月 吉江 弘正と交替

殿崎 正明 (医図協専務理事 日本医科大学図書館)
吉田 公子 (医図協中央事務局長)
室橋 真 (富山医科薬科大学)
田川 俊範 (金沢医科大学)
木村 幹明 (福井大学)
折井 匡 (信州大学)
内藤 裕子 (日本歯科大学新潟歯学部)
吉江 吉夫 (松本歯科大学)
林 千夏 (長野県看護大学)
星野茂登一 (新潟大学)
星 和夫 (新潟大学)
樋口 葉子 (新潟大学)
大野フヂエ (新潟大学)

第1回組織委員会は総会会場の見学を兼ねて祝日にはさまれた平成16年9月22日に朱鷺メッセにて開催した。組織委員会では通常お茶とケーキが付くものと1週間前にそっとアドバイスがあり、あわてて注文。委員会の3日前には新潟に行ったら新潟の酒が飲みたいといわれ、あわてて居酒屋を予約した。

実施計画の概要が決まり、続いて新潟のシンボルである佐渡に生育している朱鷺と、新しい時代の図書館像を求めることを意味して、メインテーマを「新しいときを求めて」と決定した。分科会はテーマ、講師選択共とても新潟の力では無理なので開催せず、エクスカージョンオンリーとして、日帰り・1泊コース7通りを提案したが、2分科会も併せて開催することになった。企業展示も少しでも多くの参加を得るために維持会員の他に、過去に参加した企業の全てに案内することになった。

委員会終了後、会場見学をした。平成15年5月にコンベンション施設としてオープンしたばかりの、新しく設備も整っている朱鷺メッセの会場内を見て歩き、改めて第76回総会を現実のものと感じた。その後、場所を駅前に移して懇親会となった。喉を潤し、会話がス

*Fujie OHNO : 〒951-8525 新潟県新潟市旭町通1番町754番地。
(2005年7月4日 受理)

ムーズになり基調講演者の候補名が挙がった。

Ⅲ. 第25回北信越地区医学図書館協議会（実質第2回組織委員会）

台風の影響で出席できなくなった館もあったが、台風一過のさわやかな秋晴れの平成16年10月21-22日に第25回北信越地区医学図書館協議会が松本歯科大学の当番で開催され、協議事項に総会準備を盛り込んでいただいた。基調講演は内諾を得ていたこともあり、顔をあわせる機会の少ない北信越地区なので、ここではなんとかしてもパネリスト候補の個人名を挙げたかった。組織委員長である藤井旭町分館長は任期を残すところ10日間となっており「私の任期はもうすぐ終了するが、総会には全面的に協力する。パネリストも引き受けるので、他のパネリストとして、図書館職員から1名、自分は医学なので、歯学から1名、薬学から1名を選んでどうか」と提案があり、図書館職員から殿崎医図協専務理事を、そして歯学及び薬学分野からは松本歯科大学・日本歯科大学新潟歯学部から1名、富山医科薬科大学から1名のパネリストを責任もって選出するとの合意がなされた。2つの分科会については、司会・話題提供者の検討を理事会にお願いすることにして、記録係2名を選出した。この時点で、基調講演・パネリスト候補者の目途が付いた。企業展示参加数により財政事情が決まるので、参加締切り後に未参加企業に手分けして参加要請をしてくれるよう地区加盟館に依頼した。

決めるべきことは全て決まり、協議会2日目は思いっきり楽しませていただいた。松本歯科大学提案の松本城見学を腰が痛い、階段が急と難癖をつけて全員で拒否し、急遽ワイン工場見学となった。赤・白は勿論貴腐ワイン、アイスワイン等試飲というよりは飲み放題といった感じであった。ワイン工場の方に申し訳なく、せめてワインを買って塩尻駅解散となった。まっすぐ帰れば無事だったものを、もう1泊したために新潟県中越地震にめぐり合う。東京から乗った新幹線が、傾いて1ヶ月停車した新幹線の直後だったので、大宮でストップし翌日郡山経由で8時間かけて帰宅した。なんとも思い出深い出張となった。

Ⅳ. 第2回組織委員会から当日まで

総会の1月前となり最終的な打合せをするために第2回組織委員会を平成17年4月15日に開催した。再度の会場見学の後、協力員、受付のやり方等細かいことを全て書き上げ、細部にわたりチェックをした。目の前に見

えるものはミスのチェックもできるが、準備忘れがないかが一番の心配であった。企業展示が26社27ブースの参加となり予算案を修正したが、財政的にはゆったりしたものになった。

その後は総会資料の作成に追われた。4月28日に総会関係原稿のデータを受け取り、5月10日印刷屋に引渡しを約束していたので、ゴールデンウィーク全部を使って講演・パネルプレゼンテーション・企業展示・参加者名簿・分科会の原稿を準備した。一方で参加者受付、参加費受領、企業展示参加企業への連絡、座席表作成と当日まで準備に追われた。

Ⅴ. 館長・司書会議

板東新潟大学理事・副学長は平成7-8年に旭町分館長をされ、旭町分館増築の青写真を描かれ、図書館業務に精通されていた。基調講演「大学法人の情報装置：電子図書館への期待」と題して、まず、経営者としての立場から法人化の意義、予算の内訳から国の電子図書館政策にふれ、新潟大学附属図書館の電子ジャーナルの導入とその経費の捻出方法等数字を交えて話された。最後に電子ジャーナル導入により図書館の入館者は減っても、図書館の有用性はより認識されているので、国立大学図書館協議会から電子ジャーナル提供社にコスト削減を迫ること、電子化した学術情報の全大学の統一プロトコルの確立を希望された。

午後はメインテーマ「新しいときを求めて」と題してパネルプレゼンテーションが行われた。最初に座長を兼ねた藤井新潟大学教授から前旭町分館長として旭町分館を紹介した後、「オープンアクセス・オンラインジャーナルの現状と将来」と題し、編集委員として出版に関ったオープンアクセスのオンラインジャーナル



図1. パネルプレゼンテーション

「Retrovirology」について、そして最後に分館長としての経験から医学図書館の将来展望を話された。

パネリストの殿崎医図協専務理事は、国内で発行される学術論文の80%が外国雑誌に掲載されている現状から図書館の3ない運動（不当な高額雑誌を買わない、投稿しない、査読及び編集者にならない）を提唱していること、国内の雑誌に論文を投稿し、近い将来に Nature, Science を凌ぐ日本発の一流雑誌を発行すべきと主張された。

次に関本日本歯科大学新潟歯学部教授より、問題解決型学習法 PBL（Problem Based Learning）について、アメリカで始まり国内では歯学部で28大学が導入しているとの報告の後、実際に日本歯科大学での様子と、その効果および学生の反響について紹介された。

最後に、倉石富山医科薬科大学教授より日本における薬学部図書館の実情について、特に最近私立大学での学部改変が激しく図書館の形態も様々であること、しかしどの教員も電子ジャーナルの一層の充実を望んでおり、今後も安い経費でより多くの電子ジャーナルの閲覧を可能にするために、コンソーシアムの組織化を期待していると結ばれた。

企業展示は3階の中間会議室を2室使用し、社名の入った展示パネルも用意しゆったりしていた。総会会場とフロアが違ったので少しでも多くの参加を得るために企業展示室の前にドリンクコーナーを準備した。

懇親会は2階連絡通路を通り、ホテル日航新潟「朱鷺の間」で250名をこえる参加者で行われた。信濃川にかかる万代橋が夕日を浴びてくれてゆく景色を眺めながら、big bear（大熊新潟大学附属図書館長）作成の新潟銘酒紹介パンフレットを片手に1升ビン20本を飲み干した。

VI. 総会

翌20日の総会は、地区代表機関の長として長谷川新潟大学長、清水日本医学図書館協会長の挨拶を最初に、上田文部科学省研究振興局情報研究推進専門官、永井日本薬学図書館協議会長、Jong Min Choi 韓国医学図書館協議会理事の来賓の挨拶の後、吉江旭町分館長が議長に指名され、議事録署名人として木村理事・北川理事を選出し始まった。今年は役員選挙、協会賞・奨励賞候補や、特別な議題も無かったため、定例の平成16年度事業報告、決算報告、平成17年度事業計画（案）、予算（案）が各担当理事より報告・提案され拍手をもって承認された。続いて、平成17年4月22日の理事会で制定された



図2. 企業展示コーナー

評議員および評議員会に関する細則と地区会に関する細則について、組織・制度担当理事より説明があった。

審議終了後、次期当番館の原田藤田学園医学・保健衛生学図書館長より、空港もでき新幹線の便もよいので、来年の5月25-26日のウィル愛知で開催の総会に参加できるよう予定して欲しい、また、名古屋城の金のシャチホコは今万博期間中でおろされているが、来年は天守閣に鎮座している筈と挨拶があって総会は終了した。

VII. 分科会とエクスカージョン

第1分科会「電子ジャーナルと冊子体の今後の展望」では、札幌医科大学の今野氏が平成17年1月に日本医学図書館協会加盟館を対象に実施したコンソーシアムに関するアンケートの結果を、次いで ILL における電子ジャーナル利用（試行）の結果を大阪大学の宮内氏が報告した後、フロアを交えて活発な意見交換があった。

第2分科会「患者・市民の求める医療情報」では、3名の新潟在住の話題提供者が、それぞれの立場から医療情報の与え方、探し方、求め方を話した後、フロアから様々な質問があり、具体例が紹介された。

両分科会あわせて171名の参加者があり、特に第1分科会では122名の参加のため、総会会場を使って行われた。その反面、新緑のさわやかな気候だったが、エクスカージョンは15名の最小催行人数に達せず、コースを変更して8名の佐渡1泊旅行となった。

VIII. 振り返って

全て終了して振り返ってみると、随分と恵まれた総会だったと思う。第1に天候に恵まれたことである。暑いような臍月晴れで傘置き場・コート預りの必要が全く無かったことは新潟では珍しいことである。信濃川沿いを

散策された方も多かったのではないだろうか。第2に施設に恵まれたこと。朱鷺メッセは施設が充実しており、特に企業展示は広い空間で希望通りの展示ができたと思う。そして第3は理事を始め、会員の皆様より多大な協力を得たこと。理事の皆様にはテーマ、話題提供者の選出等分科会をすっかりお願いしてしまった。また、前当番館の帝京大学医学図書館の小川さんには図書館システム更新の多忙な時期に、様々な問い合わせをしてご迷惑をかけてしまったことに御礼とお詫びをしたい。そして最もご協力をいただいたのは、当番地区となった北信越

地区加盟館の皆様であった。第75回総会での顔合わせに始まり、パネリストの依頼、総会当日のお手伝いまで組織委員に限らず館員の皆様より応援・協力をいただいた。特に松本歯科大学図書館からは地区協議会に総会を議題に設定していただいたこと、吉江理事よりいろいろアドバイスを受けたことに感謝したい。最後に分館長の先輩として基調講演・パネリストを引き受けてくださった板東・藤井両教授、全館で協力してくれた新潟大学附属図書館、特に準備作業にあたった旭町分館の職員の皆様に御礼を言いたい。

第76回 NPO 法人日本医学図書館協会総会日程
メインテーマ「新しいときを求めて」

第1日目 館長・司書会議
平成17年5月19日(木)

9:30~10:00	受付	
10:00~10:15	オリエンテーション (総合司会) 新潟大学附属図書館情報管理課長 開会挨拶 地区代表機関新潟大学附属図書館副館長・旭町分館長	増田 晃一 吉江 弘正
10:15~12:00	基調講演 新潟大学理事・副学長 [大学法人の情報装置：電子図書館への期待]	板東 武彦
12:00~13:30	昼食・展示見学	
13:30~16:00	パネルプレゼンテーション 座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授 パネリスト ・新潟大学大学院医歯学総合研究科教授 [オープンアクセス・オンラインジャーナルの現状と将来] ・日本医科大学図書館事務室長 [日本の学術研究成果は日本の学術雑誌へ —科学技術情報立国を支えるためのインフラストラクチャーの構築—] ・日本歯科大学新潟歯学部附属病院長 [PBL テュートリアル教育から得るもの] ・富山医科薬科大学薬学部長 [薬学から医学図書館に期待すること]	藤井 雅寛 藤井 雅寛 殿崎 正明 関本 恒夫 倉石 泰
16:00~17:15	休憩・展示見学	
17:30~19:00	懇親会	

第2日目 総会
平成17年5月20日(金)

9:30~10:00	受付	
10:00~10:30	開会式 (総合司会) 新潟大学附属図書館情報管理課長 挨拶 地区代表機関長新潟大学長 特定非営利活動法人日本医学図書館協会長	増田 晃一 長谷川 彰 清水 英佑

来賓挨拶

- ・ 文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室長
- ・ 日本薬学図書館協議会長
- ・ (社)韓国医学図書館協議会理事

柴崎 孝
永井 恒司
Jong Min Choi

- 10:30~12:20 議長選出・総会審議
- 1) 平成16年度事業報告
 - 2) 平成16年度決算報告
 - 3) 平成17年度事業計画(案)
 - 4) 平成17年度予算(案)
 - 5) NPO 法人日本医学図書館協会規程について(報告)
 - 6) その他
- 12:20~12:30 次期当番館長挨拶・閉会式
- 12:30~14:00 昼食・展示見学
- 14:00~16:30 分科会
1. 電子ジャーナルと冊子体の今後の展望(マリンホール)
 2. 患者・市民の求める医療情報(小会議室303-304)

第76回総会分科会テーマ
NO.1

テーマ	「電子ジャーナルと冊子体の今後の展望」
問題提起	高騰を続ける外国雑誌への対策。冊子体と電子ジャーナルについて考え、新たな課題である電子ジャーナル相互貸借の実際を紹介する。
司会	宇野 彰男氏(北医)
話題提供者	1. 電子ジャーナル・コンソーシアムに期待するもの—アンケートの分析から見えてきたもの— 今野 穂氏(札幌)
	2. 電子ジャーナルがあれば冊子体はいらないのか フロア討議
	3. 相互貸借への電子ジャーナルの利用—阪大での試行— 宮内 修氏(阪大)

NO.2

テーマ	「患者・市民の求める医療情報」
問題提起	昨年の分科会での反響を受け、今回は市民の声を拾い上げ医療情報がどのように求められているか。その実際を各方面の方々に報告していただく。今、大学評価・病院評価における評価基準をして図書館の地域公開は重要な地位を占めている。その対策として今後の開かれた図書館を考える。
司会	佐藤 淑子氏(東女)
話題提供者	1. 患者は何を求めているのか 張 高明氏(新潟県立がんセンター新潟病院内科部長)
	2. 私と医療情報のつながり方 八木 栄子氏(特定非営利活動法人新潟 NPO 協会事務局スタッフ)
	3. 「からだのとしょかん」の紹介と利用者の声 有田 由美子氏(新潟県立がんセンター新潟病院図書室)